

1. 科目名 (単位数)	英語科指導法 I (4 単位)	3. 科目番号	EDEN3341
2. 授業担当教員	茂木 隆資		
4. 授業形態	講義、 演習 (ペア・グループ活動、ディスカッション、プレゼンテーション)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし。		
7. 講義概要	英語教育の理論と実践の両側面をバランス良く学びながら、中学校及び高等学校の英語の教員免許状の取得を希望する者にとって必要不可欠な外国語 (英語) の学習・指導に関する基礎知識を身につけることを目標とする。具体的には、世界の言語、言語の習得、第二言語習得論、学習指導要領、評価とテストなどについて学ぶ。実践的な側面としては、聞く、話す、読む、書くといった 4 技能に焦点を当てた指導技術を学び、より良い授業を展開するために必要な事柄を考察し、学習していく。		
8. 学習目標	1. 学習指導要領の理念に基いた小学校、中学校及び高等学校における英語教育の指導目標と指導計画について、及び小・中・高等学校の連携について理解を深めることができる。 2. 第二言語習得理論とその活用について理解し、英語科教育への適用を考察することができるようになる。 3. 教育現場で活用できるよう、英語の発音・語彙・文法と英語の 4 技能の指導技術の学びを深めることができる。 4. 言語テストと評価に関する理解を深め、学習者のニーズ・英語力・授業の効果を把握し、学習指導に生かす土台を形成することができるようになる。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業内容の理解を深めるために予習・復習としてテキスト内の指定した範囲を読み、疑問点などをまとめておくこと。 2. 文法の指導力向上のため、学期中に文法解説演習を数回課す。 3. 英語を英語で授業できるようにすることがこれから益々求められるため、そのための英語力向上を目指した課題 (スピーチや音読等) を課す。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 岡秀夫 編著『新・グローバル時代の英語教育―新学習指導要領に対応した英語科教育法―』成美堂。 【参考資料】 文部科学省『小学校学習指導要領外国語活動・外国語編』開隆堂。 文部科学省『中学校学習指導要領外国語編』開隆堂。 文部科学省『高等学校学習指導要領外国語編』開隆堂。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 学習指導要領の理念に基いた小学校、中学校及び高等学校における英語教育の指導目標と指導計画について、及び小・中・高等学校の連携について理解を深めることができたか。 2. 第二言語習得理論とその活用について理解し、英語科教育への適用を考察できるようになったか。 3. 教育現場で活用できるよう、英語の発音・語彙・文法と英語の 4 技能の指導技術の学びを深めることができたか。 4. 言語テストと評価に関する理解を深め、学習者のニーズ・英語力・授業の効果を把握し、学習指導に生かす土台を形成できるようになったか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する 1. コースワーク (授業中の態度・積極的参加度、ペア、グループワーク等) 総合点の 20% 2. 課題 (英語実技、レポート等) 総合点の 30% 3. 復習テスト 総合点の 20% 4. 期末テスト 総合点の 30% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。		
12. 受講生へのメッセージ	英語の学習者から指導者へとなるための橋渡しとなる大事な授業なので、予習・復習を常にしっかりと行うよう心掛けてもらいたい。英語学習者としての今までの経験を振り返りながら、学習者からだけでなく指導者からの視点でも英語の学びを捉えられるように目指そう。また、積極的に実用英語検定 (英検) や TOEIC の資格試験に挑戦し、英語力の向上について常に高く意識してもらいたい。学習指導要領にもあるよう、学校での授業は原則英語で行うことが求められる。授業内でもそのような場面があるので、そういう場面を通して、英語での実践的コミュニケーション能力の向上を図ってほしい。		
13. オフィスアワー	基本的に授業時間の前後 1 5 分間を用いる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	英語教員の資質について自分なりに熟慮して授業に臨むこと。
		事後学習	講義の流れをつかみ、学習計画を立てる。
第 2 回	英語科授業の DVD 視聴	事前学習	模範となる英語科の授業を観察するにあたり、見るべきポイントを設定しておく
		事後学習	観察した授業を見て学んだことを自分のことばで文章にまとめてみる。
第 3 回	第 1 章 世界の中の英語 (1) 世界の言語と英語	事前学習	テキスト第 1 章を読んで、世界的視野で英語を捉えられるようにしておく。
		事後学習	現代社会における英語の位置付けを鑑みて、どのように教えるべきか自分なりに考えを発展させていく。

第 4 回	第 1 章 世界の中の英語 (2) 英語の多様性と日本の英語教育	事前学習	英語の捉え方について考えを更に発展させ、不明瞭な所があれば質問をする。
		事後学習	自分が教員になった場合にどのように英語を教えるべきなのか考えを更に発展させる。
第 5 回	小学校外国語活動の DVD 視聴	事前学習	小学校外国語活動についての情報を収集して、概要をつかむ。
		事後学習	観察した授業から学んだことを整理する。
第 6 回	第 1 2 章 小学校英語	事前学習	第 12 章を読んで、自身が小学生の頃に英語をどのように学んだか振り返っておく。
		事後学習	小学校での英語指導に向けて何をすべきか自分で計画立てる。
第 7 回	第 2 章 第二言語習得 (1) 習得のしくみ	事前学習	第 2 章を読んで、外国語の習得プロセスについて自分の学習と重ね合わせて考えてみる。
		事後学習	習得プロセスについて整理していく。
第 8 回	第 2 章 第二言語習得 (2) コミュニケーション能力	事前学習	テキストに基づきコミュニケーション能力について考えを深める。
		事後学習	外国語を指導する立場としてどのようなことに気をつけるべきか自分で考えを発展させていく。
第 9 回	第 3 章 外国語教授法 (1) 主要教授法	事前学習	第 3 章を読んで、主要な外国語教授法について知る。
		事後学習	各教授法の長所・短所を整理する。
第 1 0 回	第 3 章 外国語教授法 (2) 折衷的教授	事前学習	各教授法をどのように活用すべきかについて考える。
		事後学習	教える立場で、教授法の活用案を発展させていく。
第 1 1 回	第 4 章 学習者 (1) 学習者要因	事前学習	第 4 章を読んで、学習者要因について概要を理解する。
		事後学習	自分の学習経験を省みて既習事項を捉える。
第 1 2 回	第 4 章 学習者 (2) 動機付けと学習ストラテジー	事前学習	効果的な学習方法について考える。
		事後学習	教える立場と学ぶ立場の双方から学習者要因について考えを深める。
第 1 3 回	第 5 章 学習指導要領 (1) 歴史的変遷	事前学習	小・中・高等学校の学習指導要領と第 5 章を読んで、小・中・高等学校の各校種で英語がどのように指導されるべきかについて理解する。
		事後学習	学習指導要領で求められる事項について整理する。
第 1 4 回	第 5 章 学習指導要領 (2) 改訂内容	事前学習	新学習指導要領と旧学習指導要領を比較し、新たに求められる指導とはどのようなものか読み取る。
		事後学習	学習指導要領で求められていることを教える際にどのように反映させるか自分なりに考えを発展させる。
第 1 5 回	これまでのまとめ (前半)	事前学習	これまでの既習事項を整理し、疑問点があれば質問する。
		事後学習	第 5 章までの既習事項を改めて整理する。
第 1 6 回	第 6 章 言語要素の指導 (1) 英語の母音と子音	事前学習	第 6 章 (pp. 79-89) を読んで、発音指導について概要を理解する。
		事後学習	母音・子音の発音練習をする。
第 1 7 回	第 6 章 言語要素の指導 (2) 英語の音声変化	事前学習	単語の発音記号を見て、発音できるように目指す。
		事後学習	単語を正しく発音できるよう練習する。
第 1 8 回	第 6 章 言語要素の指導 (3) 英語のプロソディー	事前学習	単語の発音記号を見て、正しく発音できるよう練習する。
		事後学習	プロソディーについて整理して、発音練習をする。
第 1 9 回	第 6 章 言語要素の指導 (4) 音読の重要性	事前学習	音声学の知識を基に、検定教科書の文章を音読できるよう目指す。
		事後学習	検定教科書の文章を正しく音読できるよう練習する。
第 2 0 回	第 6 章 言語要素の指導 (5) 語彙指導と文法指導	事前学習	第 6 章 (pp. 89-101) を読んで、語彙指導と文法指導の概要を理解する。
		事後学習	語彙と文法の指導についての大事な要素整理する。
第 2 1 回	第 7 章 4 技能の活動 (1) リスニング・スピーキングのプロセス	事前学習	第 7 章 (pp. 103-118) を読んで、リスニングとスピーキングの指導法の概要について理解する。
		事後学習	指導方法とこれまでの自分の学習方法とを比較してみる。
第 2 2 回	第 7 章 4 技能の活動 (2) リスニング・スピーキングの指導例	事前学習	自分が中・高等学校で学んだ方法と比較してみる。
		事後学習	リスニングとスピーキングの指導法を基に、どのように教えるべきか考えを発展させる。
第 2 3 回	第 7 章 4 技能の活動 (3) リーディング・ライティングのプロセス	事前学習	第 7 章 (pp. 118-130) を読んで、リーディングとライティングの指導法の概要について理解する。
		事後学習	指導方法と自分の学習方法とを比較してみる。
第 2 4 回	第 7 章 4 技能の活動 (4) リーディング・ライティングの指導例	事前学習	自分が中・高等学校で学んだ方法と比較してみる。
		事後学習	リーディングとライティングの指導法を基に、どのように教えるべきか考えを発展させる。

第 2 5 回	第 1 0 章 テストと評価 (1) テストの目的と種類	事前学習	第 10 章を読んで、テストと評価についての概要を理解する。
		事後学習	自分の受験経験を思い返しながら、評価の考え方をより深く理解する。
第 2 6 回	第 1 0 章 テストと評価 (2) テストの 3 大要素と波及効果	事前学習	評価の重要性を改めて認識する。
		事後学習	日本で受験可能な言語テストについての情報を得て見聞を深める。
第 2 7 回	第 1 0 章 テストと評価 (3) 到達度テストのあり方	事前学習	第 10 章を再度読んで、到達度テストについて更に深く理解する。
		事後学習	教える立場になって、どのような評価をすべきか考えを発展させる。
第 2 8 回	これまでのまとめ (後半)	事前学習	第 7 章以降の既習事項を整理して、疑問点があれば質問する。
		事後学習	既習事項を改めて整理し直す。
第 2 9 回	第 1 1 章 教員養成と教員研修	事前学習	第 11 章を読んで、目指すべき教員像について考えておく。
		事後学習	目指すべき教員像を明確に持てるように志す。
第 3 0 回	英語科教育に関する総括	事前学習	テキスト全体で学んだことについて不明瞭な所があれば質問を準備しておく。
		事後学習	既習事項について総まとめをして、試験に備える。
期末試験			